

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年7月29日(2010.7.29)

【公開番号】特開2010-46557(P2010-46557A)

【公開日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【年通号数】公開・登録公報2010-009

【出願番号】特願2009-276010(P2009-276010)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月16日(2010.6.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技機構成部材を収容可能な第 1 ケース体を、ベース部に重ねて固定すると共に、更にその第 1 ケース体に重ねて、別の遊技機構成部材を収容可能な第 2 ケース体を配置し、それら第 1 ケース体、第 2 ケース体及びベース部を一体に固定した遊技機において、

前記第 1 ケース体に形成され、前記第 1 ケース体と前記第 2 ケース体との重ね合わせ方向であるケース重ね合わせ方向で、前記第 1 ケース体を貫通したケース貫通空間を内側に有し、前記ケース貫通空間の一部を開放すると共に開放した部分を除いた前記ケース貫通空間の側方全体を前記第 1 ケース体の壁部で囲んだ溝形状をなした突部挿通部と、

前記ベース部及び前記第 2 ケース体の一方に設けられて前記ケース貫通空間に向かって突出しかつ先端部が前記ベース部及び前記第 2 ケース体の他方に固定されたケース挿通突部を備え、

前記ケース挿通突部と前記第 2 ケース体とによって前記ベース部に対する前記第 1 ケース体の移動を規制したことを備えことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上記目的を達成するためになされた請求項 1 の発明に係る遊技機は、遊技機構成部材を収容可能な第 1 ケース体を、ベース部に重ねて固定すると共に、更にその第 1 ケース体に重ねて、別の遊技機構成部材を収容可能な第 2 ケース体を配置し、それら第 1 ケース体、第 2 ケース体及びベース部を一体に固定した遊技機において、第 1 ケース体に形成され、第 1 ケース体と第 2 ケース体との重ね合わせ方向であるケース重ね合わせ方向で、第 1 ケース体を貫通したケース貫通空間を内側に有し、ケース貫通空間の一部を開放すると共に開放した部分を除いたケース貫通空間の側方全体を第 1 ケース体の壁部で囲んだ溝形状をなした突部挿通部と、ベース部及び第 2 ケース体の一方に設けられてケース貫通空間に向かって突出しかつ先端部がベース部及び第 2 ケース体の他方に固定されたケース挿通突部を備え、ケース挿通突部と第 2 ケース体とによってベース部に対する第 1 ケース体の移動

を規制したところに特徴を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

〔請求項1の発明〕

請求項1の遊技機では、第2ケース体がケース挿通突部によってベース部に直接固定されているので、第1ケース体及び第2ケース体にかかる自重や振動等による負荷が、従来のように第1ケース体とベース部との間の固定部分に集中して、その固定部分を変形させる事態を防ぐことができる。これにより、ベース部に対する第1ケース体及び第2ケース体の固定が安定する。しかも、本発明では、第1ケース体にケース貫通空間が貫通形成され、そのケース貫通空間を介してケース挿通突部が第2ケース体とベース部とを固定しているの、仮に、第1ケース体をベース部に固定し忘れ、第2ケース体のみをベース部に固定して出荷した場合でも、第1ケース体がケース挿通突部に係止してベース部からの脱落が防がれ、第1ケース体及びその周辺部品の破損を防ぐことができる。

さらに、突部挿通部が溝形状になっているので、第1ケース体とベース部との組み合わせ作業が容易に行える。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

(11) ケース挿通突部の先端部は螺子によって固定された構成としてもよい。これにより、ケース挿通突部を固定螺子により螺子止めしてベース部と第2ケース体とを固定して容易に固定することができ、また、容易に取り外すこともできる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

【図1】本発明の一実施形態に係るパチンコ遊技機の正面図

【図2】遊技機の後面図

【図3】遊技板の後面図

【図4】遊技板、液晶ケース体、第1ケース体、第2ケース体の分解斜視図

【図5】枠形ベース体の後面図

【図6】カバー体の斜視図

【図7】第1ケース体の斜視図

【図8】第1ケース体の斜視図

【図9】第1ケース体の左上部分の拡大斜視図

【図10】第1ケース体の分解斜視図

【図11】第1ケース体内部の模式図

【図 1 2】第 2 ケース体の斜視図

【図 1 3】液晶ケース体と第 1 ケース体を組み付けた後面図

【図 1 4】液晶ケース体と第 1 ケース体を組み付けた後面図

【図 1 5】第 1 ケース体に第 2 ケース体を組み付ける方向を示した斜視図

【図 1 6】液晶ケース体、第 1 ケース体、第 2 ケース体を組み付けた後面図

【図 1 7】遊技板、液晶ケース体、第 1 ケース体、第 2 ケース体の側面図

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

そして、第 1 ケース体 6 0 には、第 1 ケース体 6 0 を前後方向に貫通した突部挿通部 6 5 が形成されている。図 9 は第 1 ケース体 6 0 のうち突部挿通部 6 5 の部分を拡大した図である。突部挿通部 6 5 は、横長矩形状の挿通部開口 6 5 A を第 1 ケース体 6 0 の前面及び後面に有し、その内部には挿通部内壁 6 5 B によって三方を囲まれ、第 1 ケース体 6 0 の側面に開放した溝構造のケース貫通空間 6 5 C が形成されている。また、突部挿通部 6 5 は、第 1 ケース体 6 0 のうちベース部 5 2 E のケース挿通突部 5 5 に対応する部分に形成されている。第 1 ケース体 6 0 がベース部 5 2 E に固定した状態では、ベース部 5 2 E のケース挿通突部 5 5 は、突部挿通部 6 5 内のケース貫通空間 6 5 C を貫通し、その先端が第 1 ケース体 6 0 の後方に突出する。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

空間区画壁 6 0 N は、第 1 ケース体 6 0 のうち後側第 1 ケース 6 2 に設けられている。図 9 に示すように、突部挿通部 6 5 は、右方及び下方を空間区画壁 6 0 N によって、上方を囲壁 6 0 B によって囲まれている。上述したように、突部挿通部 6 5 は挿通部内壁 6 5 B によって三方を囲まれており、これに加えて空間区画壁 6 0 N によっても囲まれているので、突部挿通部 6 5 はより強度が増加している。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 7】

また仮に、第 1 ケース体 6 0 をベース部 5 2 E に載置して固定作業を忘れ、第 2 ケース体 7 0 のみをベース部 5 2 E に固定するという作業ミスが発生してしまったとしても、ベース部 5 2 E と第 2 ケース体 7 0 とを繋ぐケース挿通突部 5 5 が、第 1 ケース体 6 0 を貫通するケース貫通空間 6 5 C を貫通しているので抜け止めされ、パチンコ遊技機 1 0 本体から外れてしまう事態を防ぐことができる。なお、ケース挿通突部 5 5 は、突部挿通部 6 5 の挿通部内壁 6 5 B に三方を囲まれているので、ケース挿通突部 5 5 が外部に露出して破損する虞を低減することができる。さらに、ケース固定突部 5 6 の固定が解除されてしまうような事態が生じた場合にも、ケース挿通突部 5 5 と突部固定部 7 5 とが固定されていれば第 1 ケース体 6 0 の脱落を防止できる。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 8】

( 8 ) 前記実施形態では、カバー体 5 2 の一部に本発明のベース部を設けたが、ベース部を設けるのはカバー構造の部材に限られない。ケース体を固定可能な壁面を有している部材であれば、例えば遊技板 1 1 や機構板 4 9 であってもよい。

【手続補正 1 2】

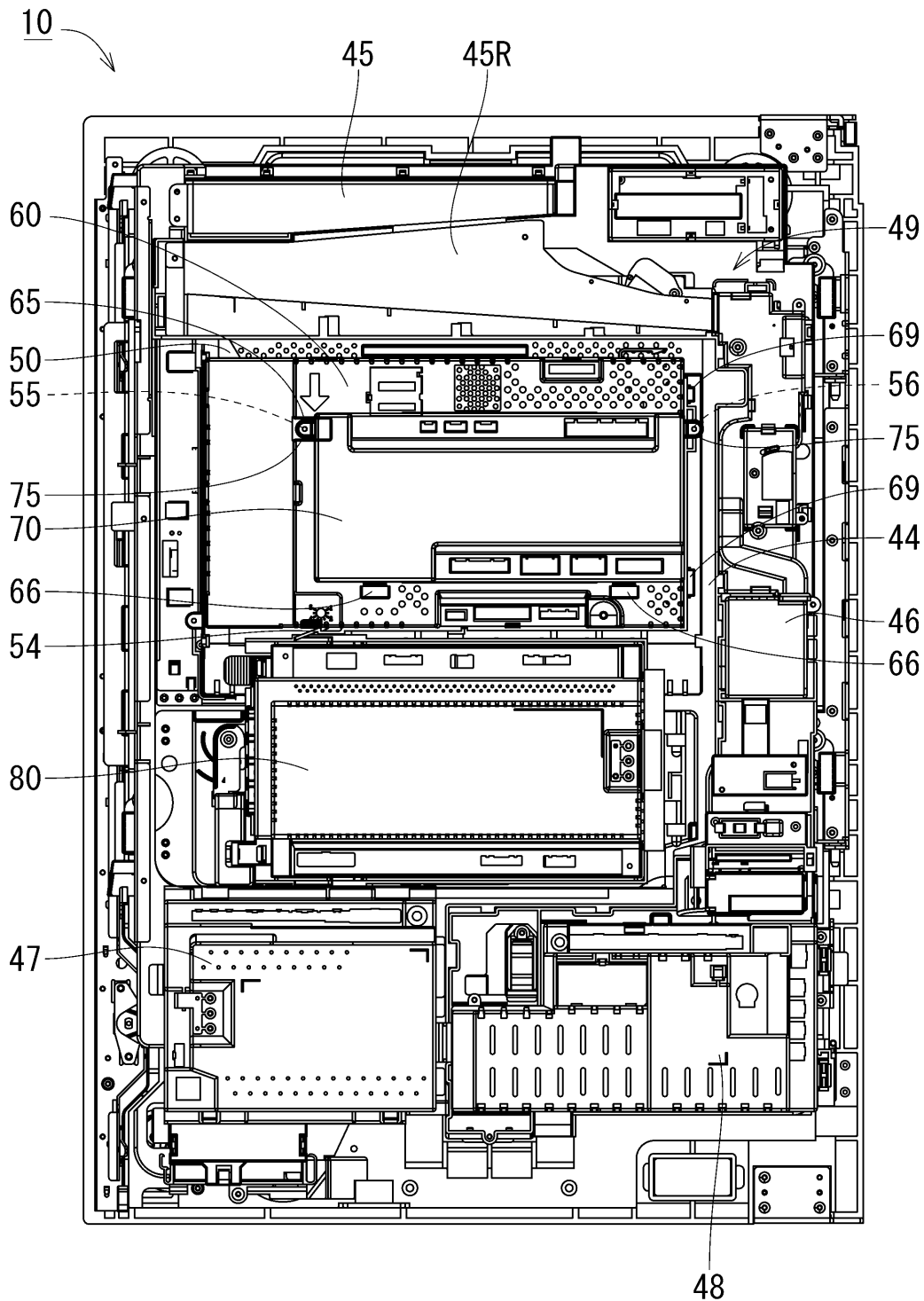
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】



【手続補正 1 3】

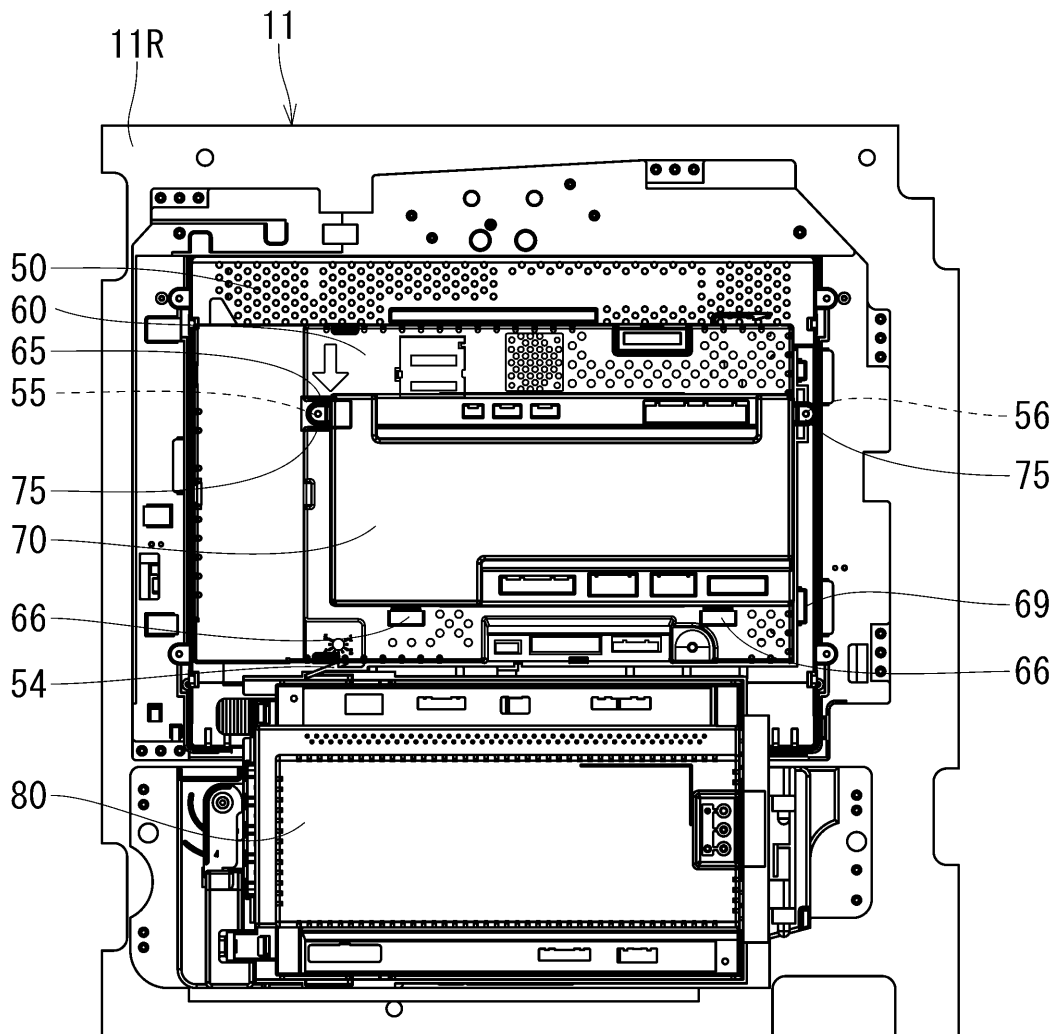
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】



【手続補正 1 4】

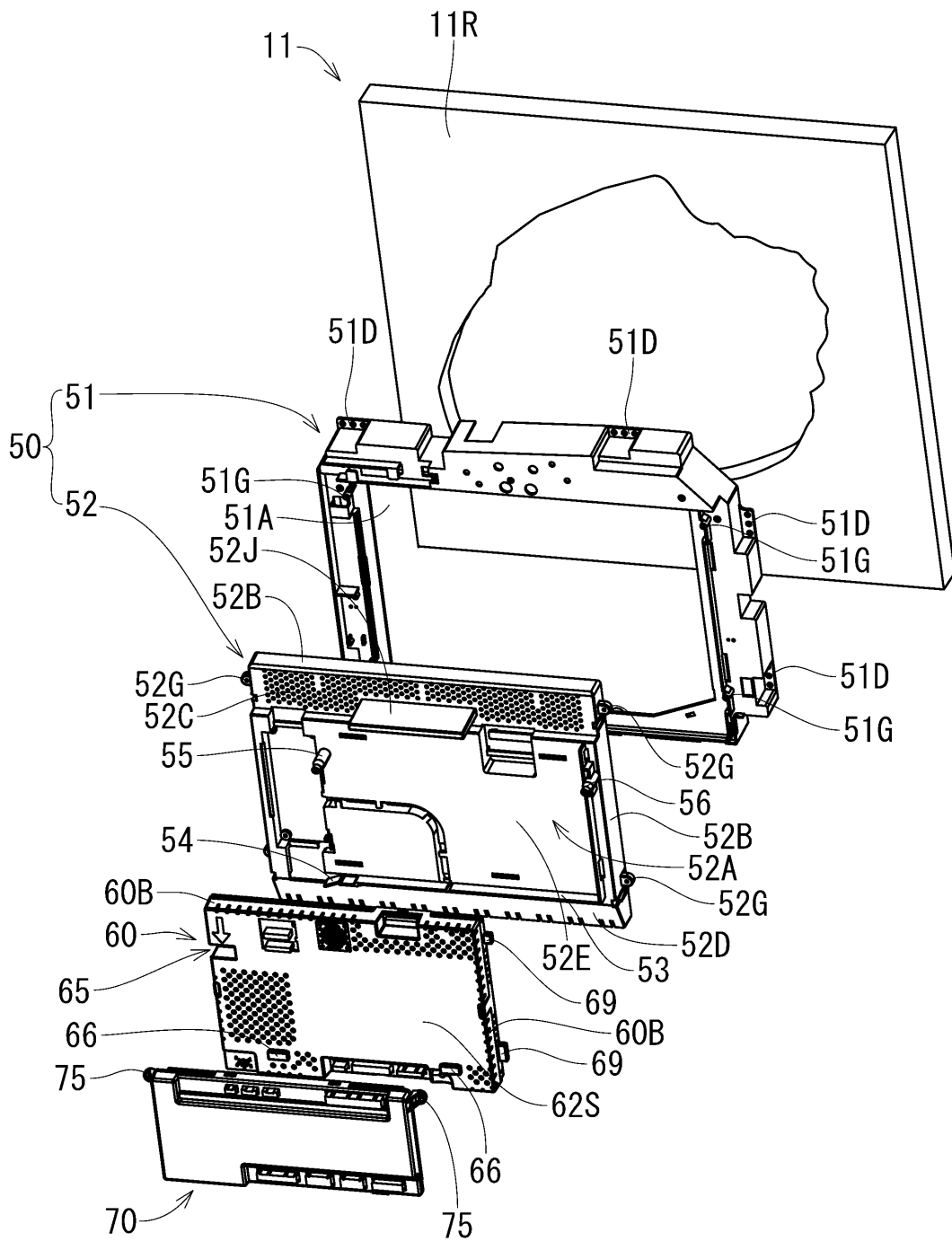
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4】



【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

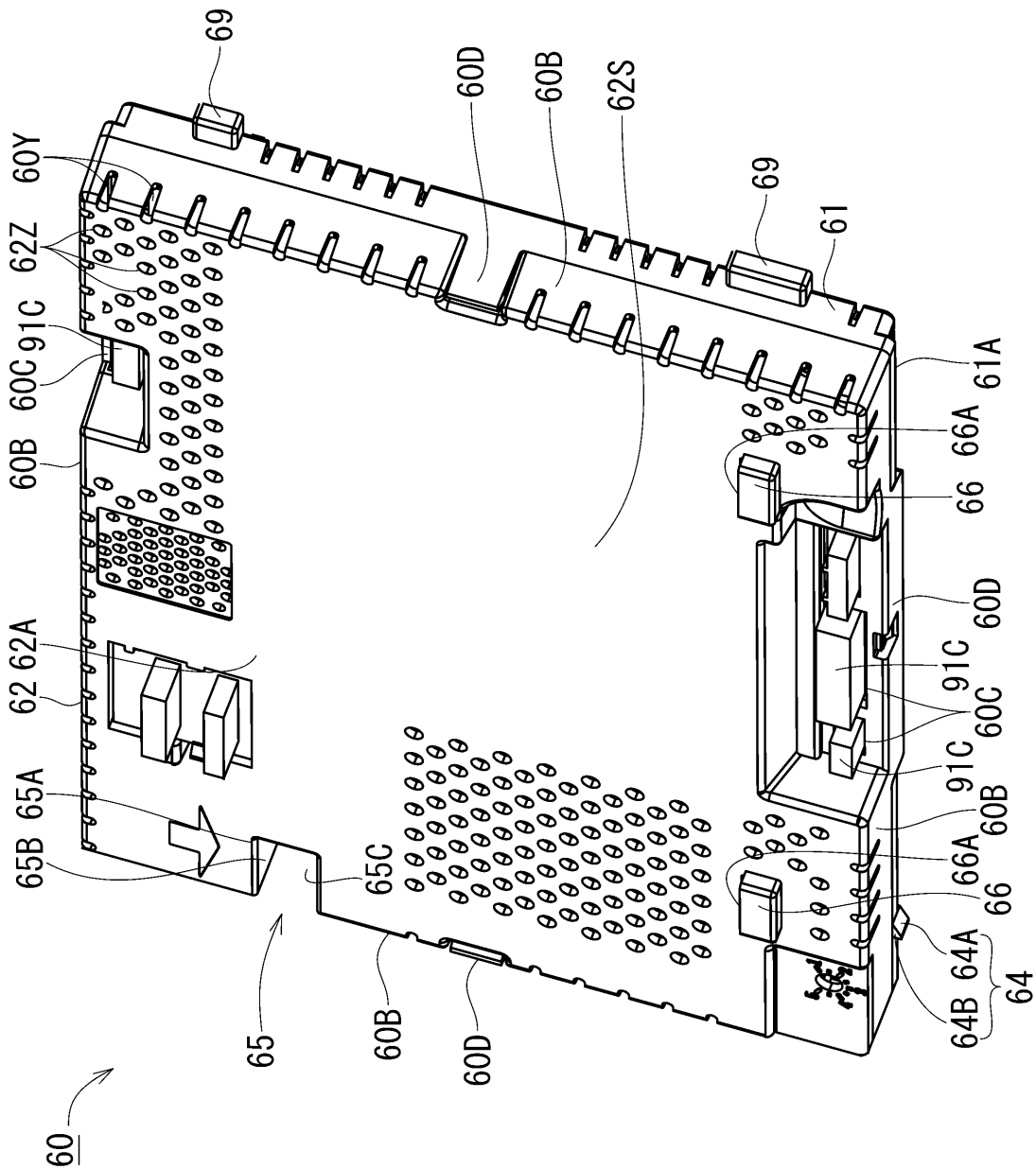
【補正方法】変更

【補正の内容】





【図 7】



【手続補正 17】

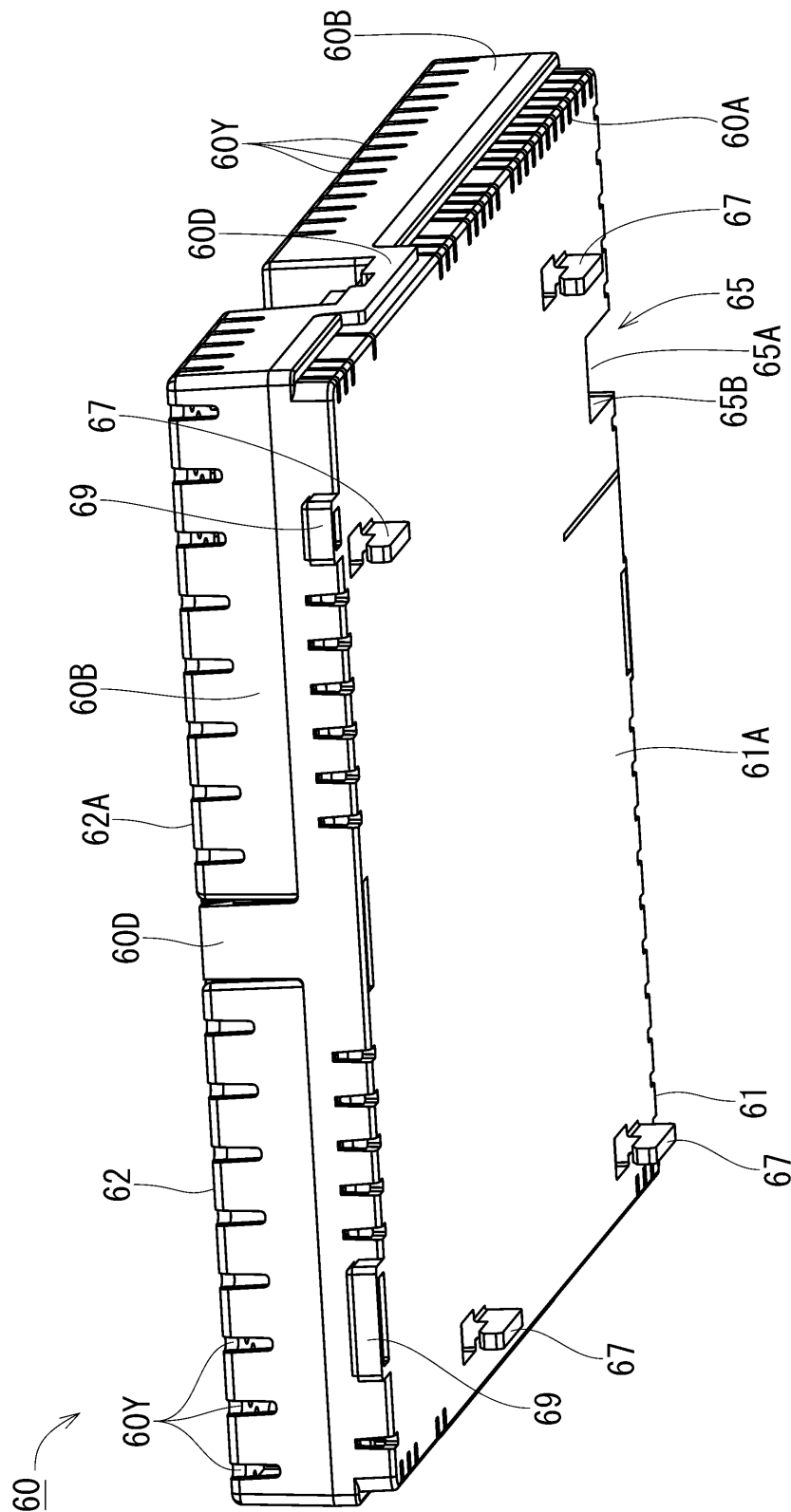
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】



【 手続補正 1 8 】

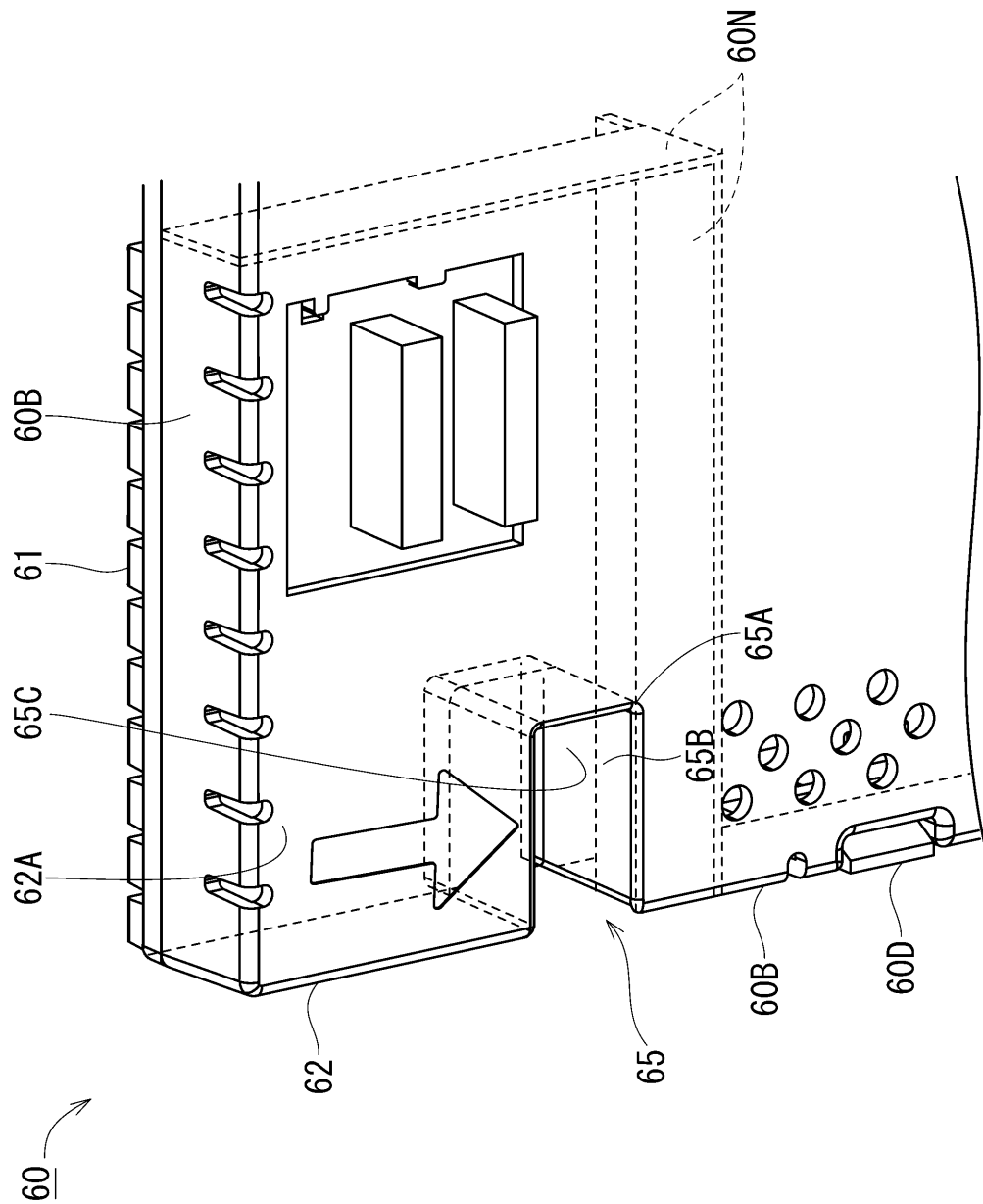
【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 9

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図 9】



【手続補正 19】

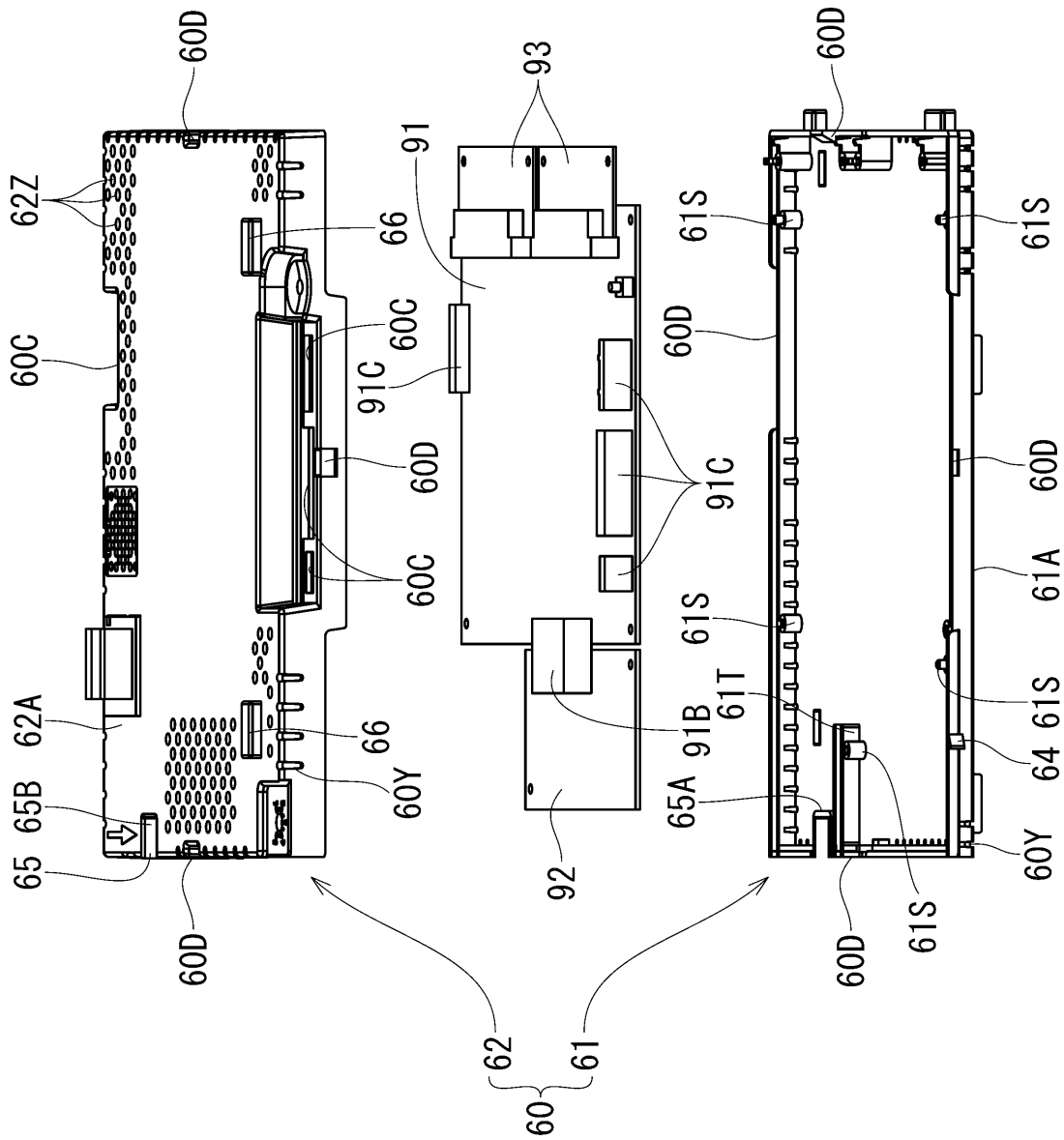
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 10】



【手続補正 20】

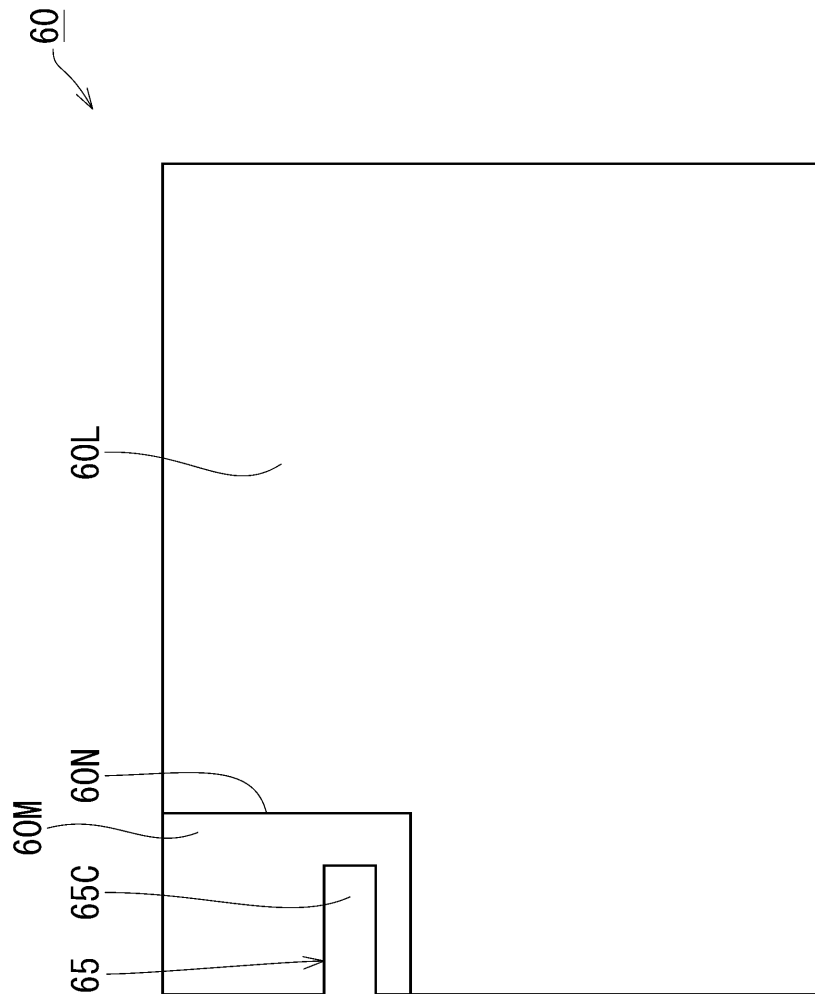
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】



【手続補正 2 1】

【補正対象書類名】図面

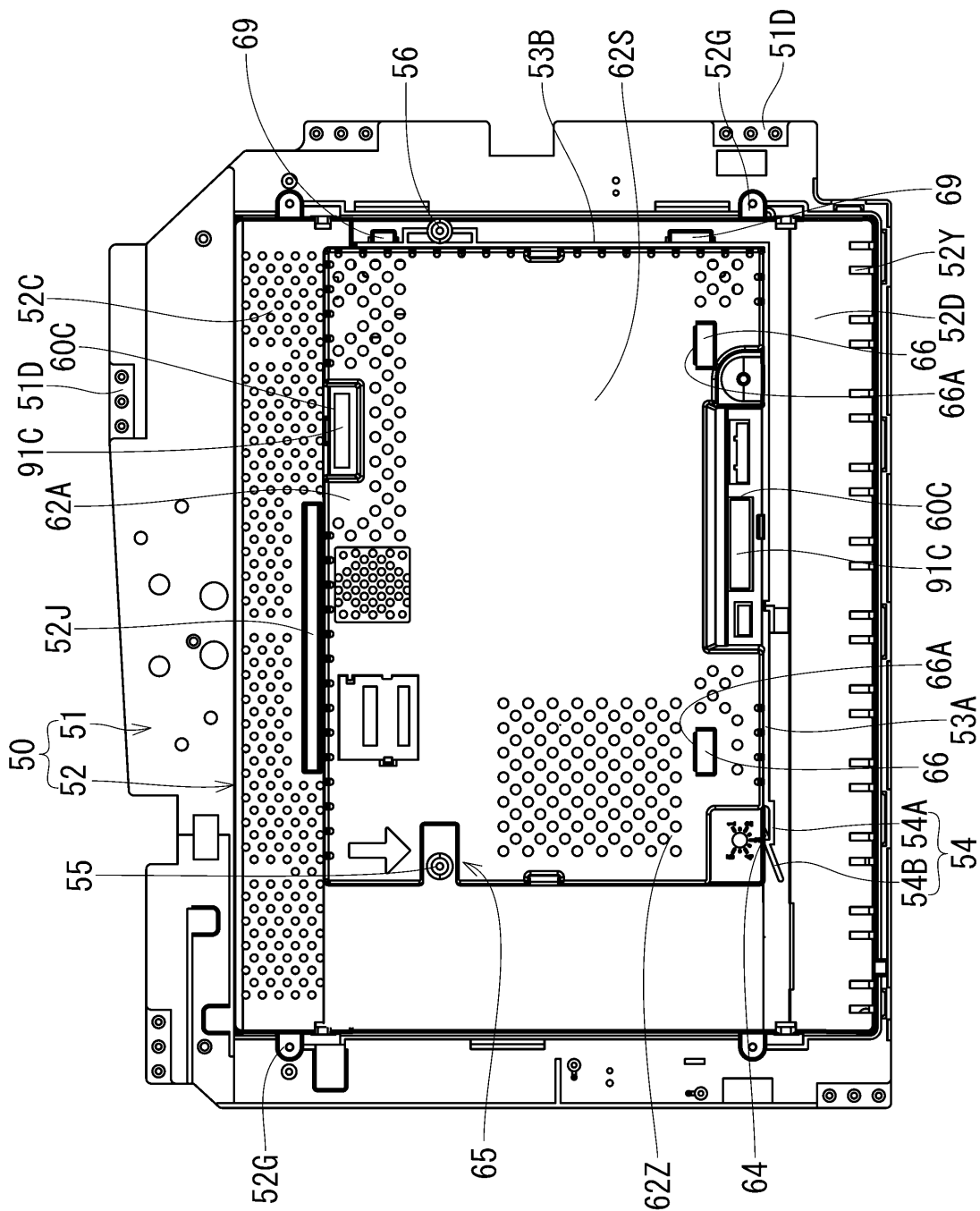
【補正対象項目名】図 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】



【図 1 4】



【手続補正 2 3】

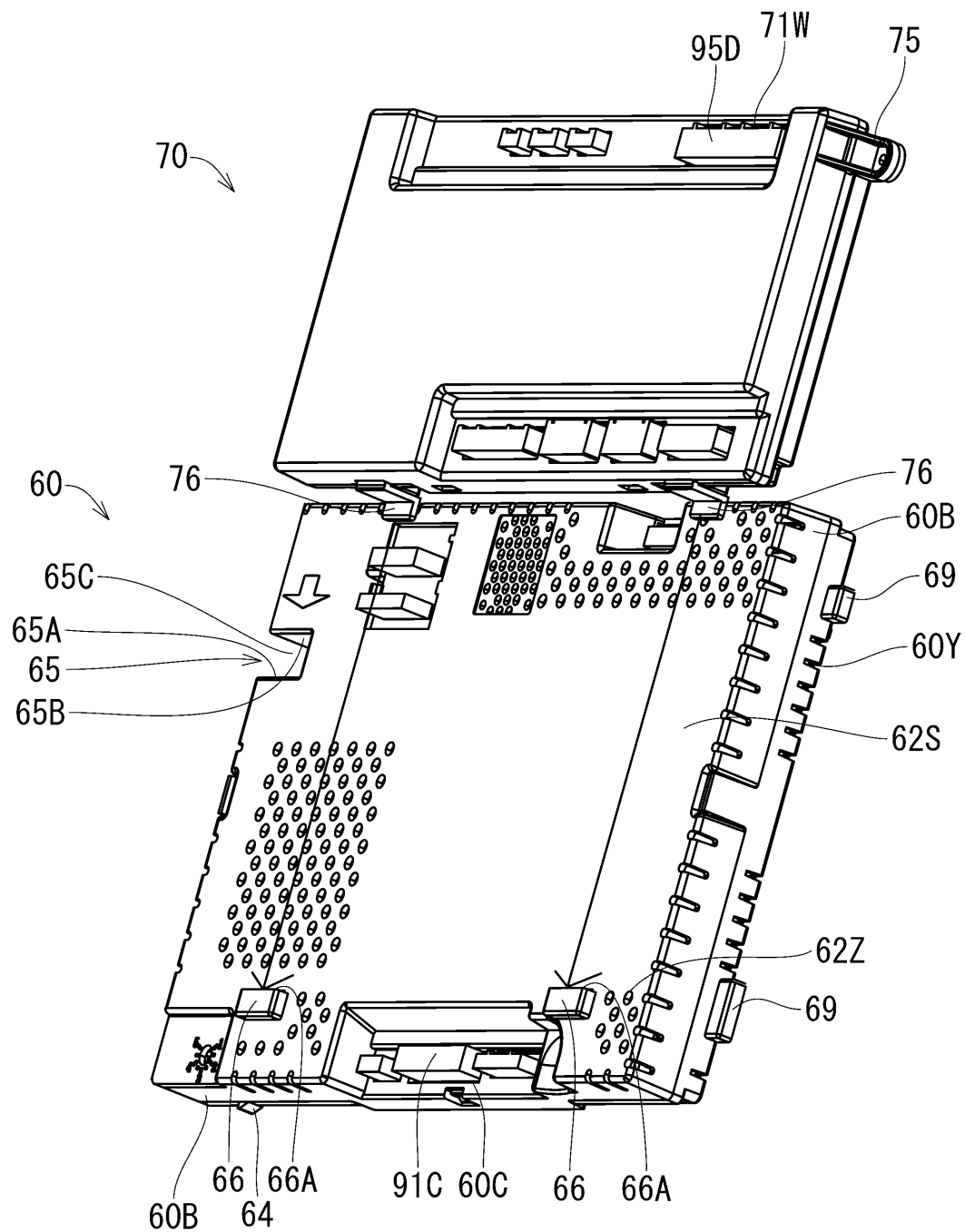
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 15】



【手続補正 2 4】

【補正対象書類名】図面

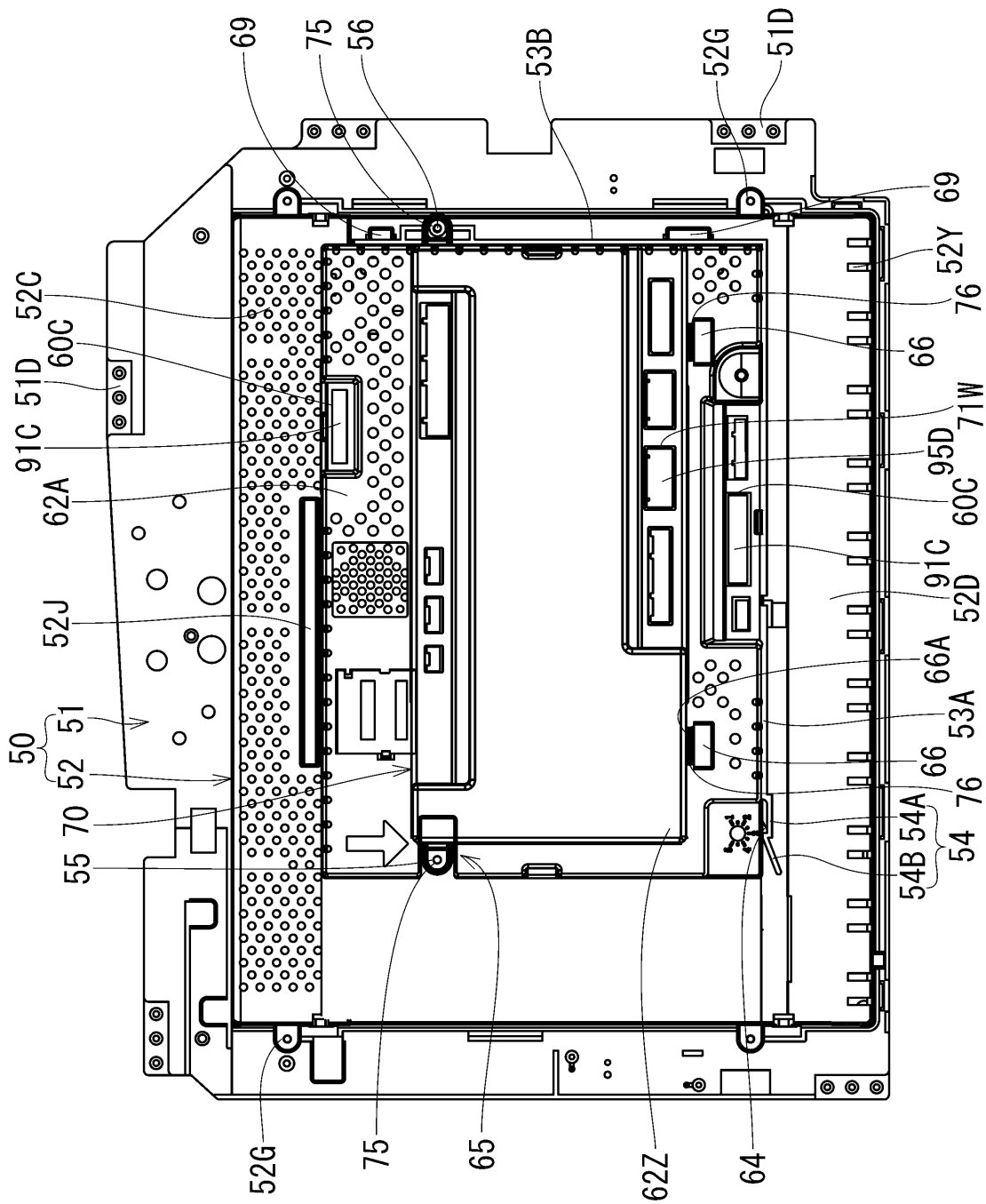
【補正対象項目名】図 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】



【図 16】



【手続補正 25】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 18

【補正方法】削除

【補正の内容】